

# 坂野 菜々子 さん

小学校教育課程 小学校教育コース  
兵庫県（特支）内定  
兵庫県立明石清水高等学校出身



## ■ 学校種を目指したきっかけ

私は、障がいのある子どもたちとの出会いがきっかけで特別支援学校教諭を目指しました。大学入学当初は「本当に教員になりたいのだろうか」と悩んでいましたが、2年次のインターンシップで特別支援学級の子どもたちと関わり、「特別支援教育を学びたい」と自分の中で動くものがありました。その後、特別支援学校でボランティア活動に取り組み、子どもたちとの出会い、個別性のある授業、先生方の指導支援から、特別支援学校教諭という夢を確信しました。

## ■ 大学での学び・教育実習での経験

大学での学びでは、教育現場に携わってこられた先生方から実際の現場の話を聞くこと、専門的な内容を学ぶことができました。

教育実習では、素敵な子どもたちとの出会いと別れを経験し、これから先のたくさんの「出会い」と「別れ」を大切にしたいと思いました。また、小学校は算数、特別支援学校は自立活動で研究授業に取り組み、どちらも子どもたちの良さを活かした授業を目指し、子どもたちの「できた！」「分かった！」という発言、表情をたくさん見ることができ、教員のやりがいを実感することができました。最後のお別れ会でもらった子どもたちからのメッセージは一生の宝物になりました。

## ■ 採用試験でのアピールポイント

私は、「計画性があり継続的に物事に取り組むことができる」を自分の強みとしてアピールしました。中学1年生からソフトボールを続けたこと、毎日計画的に学び続け3年次に成績優秀者として表彰されたこと、2年次から特別支援学校でのボランティア活動に取り組んできたことを伝えました。

また面接中は、笑顔で、想いを真っすぐに伝えることを大切にしました。教育実習やボランティア活動に関する質問、模擬授業、場面指導では、関わってきた子どもたちを思い出したので、自然と笑顔が溢れていたと思います。子どもたちからパワーをもらうことができたと感じています。

## ■ 教職センターでのサポート

私は、4つの自治体に挑戦し、個人面接、集団討論、グループワーク、模擬授業、場面指導、小論文、筆記試験、と対策しなければならない内容が多く、不安な気持ちでいっぱいでした。ですが、教職センターの先生方の支えがあったからこそ、すべての自治体から合格をいただくことができたと実感しています。

特に印象に残っていることは、教職センターの先生方がお昼ご飯を食べることよりも優先して面接練習をしてくださっていたことです。それだけではなく、早朝や夜遅く、学校が休みの日にはリモートで対策をしてくださるなど、こんなにも「学生のために」と考え、向き合ってくれる温かい先生方がいるのだと実感し、「絶対に最後まで突き進もう」と思いました。

また、教職センターの先生方、ゼミの先生、人間教育学部の先生方は、常に前向きな言葉をかけてくださいり、自信を持つことができました。「絶対に素晴らしい先生になれるよ」と背中を押してくれたこと、たくさん支えてくださったこと、この感謝の気持ちは絶対に忘れません。

## ■ 目指す教員像

私の理想の教師像は「子どもの可能性を信じてできることを伸ばせる教員」です。これまでのボランティア活動で「待つ」を意識したことで、子どもたちの「できた、できる」の場面にたくさん出会いました。その時の、嬉しそうな子どもの表情が本当に素敵で、学習面や行動面、さまざまな面で子どもの可能性をじっくりと待って、引き出せる教員になりたいと思うようになりました。

## ■ 後輩へのメッセージ

「教採を楽しんで！！」

これは、私が先輩からもらった言葉です。私はこの教員採用試験の期間、人生で1番勉強に時間を費やして、初めて自分としっかり向き合って、何度も何度も自分自身にぶつかってきました。心が折れそうだったときに、この言葉をかけていただいて、「逃げ出したい」から「楽しんでやるぞ」という前向きな気持ちになりました。だから、みなさんも、今はまだ不安かもしれない教員採用試験の期間を、全力で楽しみながら取り組んでください。

そして、一緒に頑張る仲間が周りにはたくさんいます。同じ課程の仲間、ゼミの仲間、そして、私は違う課程のこれまで話したことが無かった仲間とも出会うことができました。大学内ですれ違ったときに、「お疲れ様！」「頑張ろな～！」と一言交わすだけでも、頑張るパワーになります。みなさんも、周りの仲間を大切にして、支え合いながら、時には息抜きをして取り組んでほしいです。これから大学生活、そして教員採用試験、がむしゃらに突き進んで、全力で楽しんでください。応援しています！